

## 2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年3月23日

報告者	学科名	現代福祉学科	職名	特任准教授	氏名	周防美智子
研究課題	地域子育て支援拠点における児童虐待予防のための連携シート構築					
研究組織	氏名	周防美智子	所属・職	現代福祉学科、特任准教授	専門分野	子ども家庭福祉
	代表	周防美智子	所属・職	現代福祉学科、特任准教授	専門分野	子ども家庭福祉
	分担者	地域子育て支援拠点7施設長	所属・職	総社・倉敷地域子育て支援7施設	専門分野	子育て支援
研究実績の概要	<p>全国の児童虐待相談対応件数は、少子化に逆行し年々増加している。岡山県内においても同様の傾向が見られる。昨年度は県内で児童虐待による死亡事案もあり、児童虐待に向けた早期発見、早期対応が急務である。とくに、早期発見や早期対応が遅れがちで、園や学校につながっていない在宅児童、年少児童に向けた対策が必要である。現在、在宅児童の子育て支援の中心となるのが、母子保健によるところの保健師による子育て支援と児童福祉法による地域子育て支援拠点事業である。</p> <p>そこで、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場で子育て支援を行う、地域子育て支援拠点において、児童虐待予防、早期発見を目指した子育て支援が求められている。厚労省は、職員の質の確保のための専門性の強化対策を提言しているが、地域子育て支援拠点は、公共施設、保育園、NPO等が運営し、職員の経験や資格などもさまざまである。そのため、一定の子育て支援の提供、関係機関との連携などにおいて拠点間の差が見られる。地域子育て支援の強化を図るためには、地域子育て支援拠点の専門性を活かした支援マニュアルを作成し、職員のスキルアップを図ることが重要である。</p> <p>本研究では、岡山県内の地域子育て支援拠点の専門性を活かした地域連携による児童虐待予防、早期発見を目指し、支援マニュアルとなる『連携シート』を作成することで、職員のスキルアップと地域における子育てネットワーク、連携支援の強化を図る。</p> <p><b>【研究方法】</b>  ※コロナ感染予防が優先される中で、予定していた集団インタビューの実施が難しく、研究会の開始も予定通り行えない状況であった。そのため、研究方法を予定より変更して実施した。</p> <p>1) 『児童虐待予防に向けた連携シート』の必要性に向けて、2022年10月備中管内での研修実施。  2) 『児童虐待予防に向けた連携シート』作成について研究会にて協議する。10月から月2回の研究会開催。  3) 研究分担者の拠点での事例対応および評価、課題を各拠点でまとめ、研究会で検討する。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>4) 3)の結果をもとに連携アセスメントシートを作成し、各拠点で実際に活用してもらい修正を行っていく。</p> <p>5) 修正を繰り返し、架空事例を連携アセスメントシートに落とし込み、さらなる検討を行い、連携アセスメントシートを作成する。</p> <p>6) 連携アセスメントシート活用におけるアセスメント、連携の在り方、記録の取り方、シートの記入方法などを記載した冊子として作成する。</p> <p>作成した冊子は県内の地域子育て支援拠点に、備中県民局の協力を得て配布予定。来年度、地域子育て支援拠点における研修にて、シート活用効果と課題を追跡調査する予定である。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>『地域子育て支援拠点 連携アセスメントシート』冊子</p>